

目次

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[表記法](#)

[背景説明](#)

[セットアップ ログイン 資格情報](#)

[関連情報](#)

概要

このドキュメントでは、Cisco Intelligent Contact Management (ICM) 環境で DBWorker プロセスによってアクセスされる 2 つの外部データベースのログイン クレデンシャルの設定方法について説明します。

前提条件

要件

このドキュメントの読者は次の項目に関する知識が必要です。

- Cisco ICM
- Microsoft SQL データベース

使用するコンポーネント

このドキュメントの情報は、次のソフトウェアとハードウェアのバージョンに基づくものです。

- Cisco ICM バージョン 5
- 標準 Microsoft SQL Server 2000 かサービスパック 2 が付いている Enterprise Edition

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されたものです。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、クリアな (デフォルト) 設定で作業を開始しています。ネットワークが稼働中の場合は、コマンドが及ぼす潜在的な影響を十分に理解しておく必要があります。

表記法

ドキュメント表記の詳細は、『[シスコ テクニカル ティップスの表記法](#)』を参照してください。

背景説明

DBWorker プロセスは Cisco CallRouter で実行するログインおよびホスト データベース ルックア

ップに責任があります。呼び出しがルーティングされる時外部 データベースおよび使用をそのデータ問い合わせるそれはプロセスです。Cisco ICM バージョン 4.5.x および それ 以前では、2つ以上のデータベースのためのログイン資格情報を設定するために `rtsetting.exe` 実行します。Cisco ICM バージョン 4.6 のリリースを使って、サポートされる `rtsetting.exe`。外部 データベースのためのログイン資格情報を設定するためにどちらかの `regedit` `regedt32` を実行して下さい。

セットアップ ログイン 資格情報

外部 データベースにアクセスする `SQLLogin` レジストリキーにサーバ名、外部 データベース名前、ドメイン、ユーザおよびパスワードを入力することを `DBWorker` プロセスに関しては必要とします。`DBWorker` プロセスがリモートで 外部 データベースに接続されることを試みる時システムチェック、ログイン資格情報のために [ここに](#)示されている `SQLLogin` レジストリキー、:

バージョン 5.x および それ 以降に関しては:

5.0 以前のバージョンに関しては:

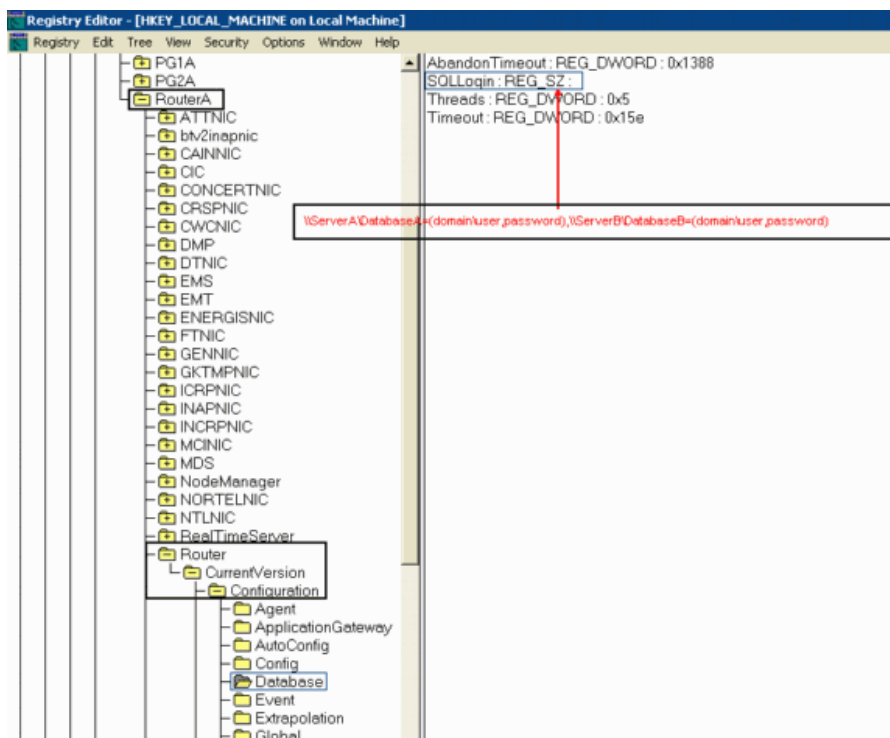
注上記のレジストリキーはスペース制限による 2 つの行に表示する。

カンマは個々のデータベースのための別々のデータヘデリミタです。これは 2 つの外部 データベースのためのログイン資格情報を示す例です:

```
"SQLLogin"="\ServerA\DatabaseA=(domain\user,password),\ServerB\DatabaseB=(domain\user,password)"
```

注上の例はスペース制限による 2 つの行に表示する。

- **ServerA** は最初の SQL サーバの名前です。
- **DatabaseA** は最初の SQL サーバのデータベースの名前です。
- **ServerB** は第 2 SQL サーバの名前です。
- **DatabaseB** は第 2 SQL サーバのデータベースの名前です。
- **ドメインユーザ**は、パスワード ログイン資格情報です。



値が設定された後、これらのステップを実行して下さい:

1. DBWorker プロセス (自動的に再起動します) を終了して下さい。
2. 接続がなされることを確認して下さい。

関連情報

- [DBWorker によるアクセスが可能になるように外部データベースをセットアップする方法](#)
- [テクニカルサポート - Cisco Systems](#)